

病棟の取り組み～「その人らしく生きる」～

医療法人社団秋桜 丸川病院 看護部長 丸川陽子

病棟では、家庭復帰をめざす取り組みをしています。家庭復帰することは、朝起きてから夜就寝するまでの生活行動、目的をもった活動のひとつひとつの積み重ねです。



私たち丸川病院の特徴は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が行う365日体制の機能訓練に加えて、看護や介護職員による生活行動回復や寝たきり予防、介護負担の軽減に向けた取り組みを一日のスケジュールの中で実践している点です。おいしく口から食べることや、もっと伸ばせる能力がないか、一日の生活をどう過ごしていくかなどをそれぞれの専門職の視点を活かし、当事者である患者さんやご家族とともに考え、取り組んでいます。

丸川病院のリハビリテーションは、生活の再構築と維持を支援しています。垣根のないチーム医療を目指し、専門職同士で勉強会も開催しています。バランスボールを使った訓練など、次号(以降)紹介します(@^)/~~~~

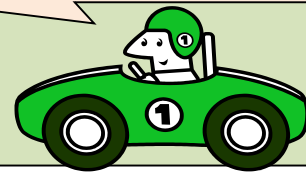
リハビリ専門員が、あなたのお家に伺います！～新川広域圏で初の…！？～

訪問リハビリでは、利用者を取り巻く環境に合わせ、歩行練習やトイレ・入浴動作練習といった日常生活に直結したリハビリを行います。さらに当院の訪問リハビリの中には、新川広域圏で初(！)となる**言語聴覚士**



(ST)を設置しており、ご自宅等において「食事で飲み込みが悪くなった」、「言葉をうまく伝えられない」といった方に対し、専門的なリハビリを提供しています。

訪問リハビリは介護保険の認定を受けている方が対象となります。ケアマネージャーさんにご相談ください。



外来診療についてのお知らせ

受付時間	8時20分～12時迄(初診は11時30分迄)	15時30分～18時迄(初診は17時30分迄)
診療時間	9時～13時(午前)	16時～18時(午後)
	月 火 水 木 金 土	月 火 水 木 金 土
診察	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ 予約のみ

* 外来休診日：日曜、祝祭日

編集後記：広報誌作成にあたり、最初はどうなることかと思いましたが、無事に第1号が完成しホッとしています。親しみやすい広報誌を目指し今後も発行していきます。これから冬本番となりますが、風邪などひかれないう、寒さ対策万全に！！

(*^)/ (S)

まるかわ便り

第1号



医療法人社団秋桜丸川病院 院長 丸川浩平

此度、『丸川だより』を発刊することとなりましたので、私から当院をご紹介させていただきます。当院は昭和54年に脳神経外科病院として開院し、今年で35周年を迎えることができました。これまで当院をご支援頂いた皆様方に深く感謝申し上げます。

振り返れば、私自身も平成17年に副院長として就任しましたが、現在の丸川病院の取り組みに至った背景には私の急性期病院での経験が大きく影響しております。

それまでの私は、脳卒中・頭部外傷患者を手術によって生命を救うことに専念していました。しかし、一方で術後に寝たきりになってしまう患者が多くいる実態を目の当たりにし、自分自身の医療に対する考え方、同時に、患者への向き合い方を見つめ直させられるに至りました。

ところが、急性期後の対応をしている丸川病院へ就任した当時は、十分なリハビリテーション機能がなく、リハビリテーションの重要性・必要性を痛感したことで、平成20年からリハビリテーション部門の設立を決意しました。一般的には、PT・OT・STという専門職種が行うものでしたが、そこに丸川病院の独自性を出すために、当院では看護・介護の病棟スタッフ全員でのプログラムを構築しました。

当院は『その人らしく生きる』の理念としていますが、「その人らしさ」とは、これまでの生活習慣や生活リズム、環境、価値観などは千差万別です。何も望んで病気になる人はいませんから、不幸にして病気になってしまい、何らかの障害を持つ状態になったとしても「その人らしく」生きて頂くことが、その方ご自身におけるその後の人生にとっても、またご家族などの周囲の方々にとっても、非常に大切なことと考えています。

脳の専門家と脳リハビリの専門職が一つのチームとなることによって、目の前の患者さんの本来持っている力を見出し、一緒になって可能性を最大限に引き出していくのが丸川病院の医療の特徴です。

来年10月には入善町への新築移転の予定もあり、建物も気分も一新し、全職員が力を合わせて地域に密着した当院ならではの医療を展開して行く所存です。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

部署紹介

診療科編

今回は、先生方の気になるプライベートに切り込みます。(..)φメモメモ

①丸川 忍先生 (理事長)



専攻:
脳神経外科
開業後、整形外科
を学ぶ

Q1.趣味や休日の過ごし方を教えてください。

ゴルフや日曜大工です。仕事の関係で家から離れることはできませんでした。

Q2.健康法を教えてください。

体に異常を感じたら、怖がらず、すぐに検査を受ける性格で、手遅れにならないようにしています。

Q3.子どもの頃の夢は？

医学部か、工学部を考えていました。

Q4.当院の強みとは！？

脳神経外科と整形外科を併設しているので両科の疾患を持っている患者さんを同日に診察することができる。急性期からリハビリまで、一貫して治療ができる。特にリハビリに特化し、高度なサービスを提供できる。

②丸川浩平先生 (院長)



専攻:
脳神経外科学会
専門医

Q1.趣味や休日の過ごし方を教えてください。

子どもたちとゴルフの打ちっぱなしに行ったり、冬になると家族みんなでスキーをしたりしています。最近では自分が子どもの頃に読んでいたマンガを全巻(中古(笑))で大人買いし、夜に一気に読んでいます。

Q2.健康法を教えてください。

ストレスをため込まないよう、適度に息抜きしています

Q3.子どもの頃の夢は？

あまり何も考えていませんでした。

Q4.当院の強みとは！？

脳神経外科出身の医師、脳疾患リハビリの専門知識を持った看護職員・訓練士などの専門のスタッフがそろっているところです。

③高橋 友哉先生



専攻:
①脳神経外科学会
専門医
②リハビリテーション科
専門医

Q1.趣味や休日の過ごし方を教えてください。

趣味はスポーツ。テレビ観戦で好きなのはプロバスケットボール(NBA)。休日は3人の子どもの部活や習い事に振り回されています。

Q2.健康法を教えてください。

身体的には片道1kmの徒歩を含む毎日の通勤。精神的には家族との時間です。

Q3.子どもの頃の夢は？

小学生の頃から医師になりたいと思っていました。

Q4.当院の強みとは！？

リハビリテーション医療に不可欠な多職種協働がしやすい「風土」
良いと思ったことが即断即決で進みやすい「風土」

(*~*) ありがとうございました!!! 次回は、リハビリ科 です (*~*)

丸川病院の特色～ボツリヌス療法～

脳卒中や頭部外傷などの脳損傷後に多くみられる問題として、半身の麻痺(片麻痺)とその部位における“痙縮(けいしゆく)”があります。

“痙縮”とは、筋肉のこわばりのことで、手足を動かす際の邪魔になります。ちょうど、昔の漫画にあった全身にバネをつけて生活するようなイメージです。

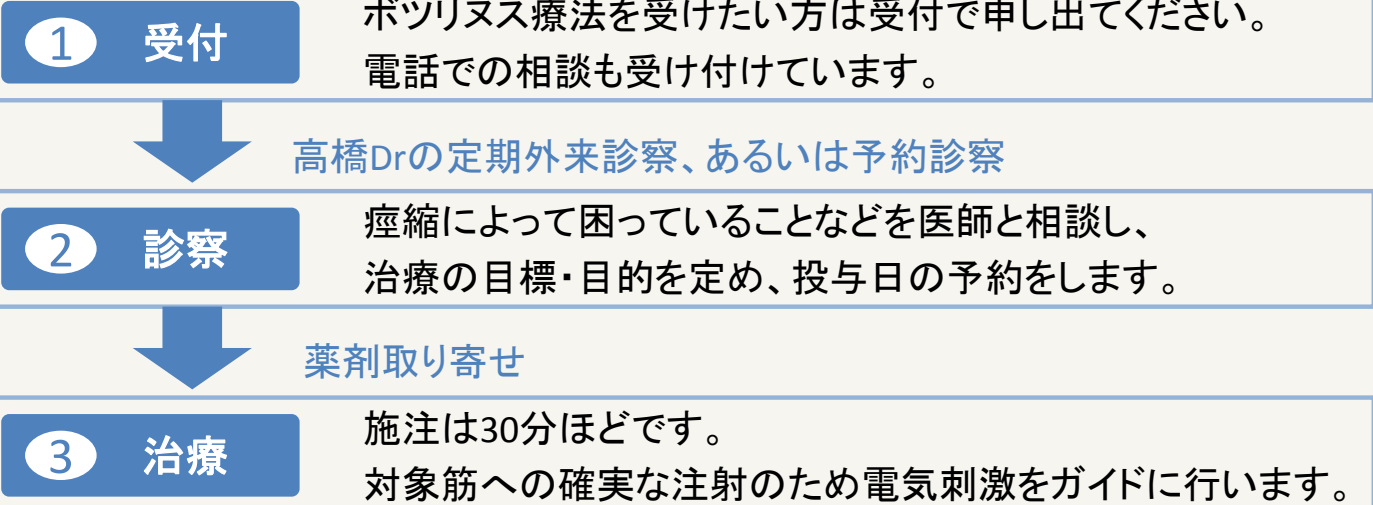
麻痺で手足が動かしにくい上に、“痙縮”というバネをつけているので、動作への影響は非常に大きくなります。その他、患者さんは痛みなどの苦痛を感じ、介護者にとっても更衣や手洗いなどの際の負担となるなど、“痙縮”が生活に与える影響は幅広くかつ大きいものとなります。

“痙縮”に対する治療の1つとして2010年に認可された「ボツリヌス療法」は、その手技の簡便さとキレのある作用から非常に注目されています。筋肉を麻痺させるボツリヌス毒素を精製し、それを筋肉内に注射して効果を得る治療法で、1回の注射で3ヶ月ほどの持続効果があります。当院では、専門医の診察により多数ある筋肉の中から症状や動作に直接影響している筋肉を同定し、注射しています。



「ボツリヌス療法」では、リハビリテーションを併用することで、その効果が高まったり、麻痺などの身体機能や歩行・生活動作能力が改善したりすることも多くみられます。当院では、ボツリヌス療法と短期集中リハビリテーションを併せた「ASSISTプログラム」も行っており、詳しくは次号(以降)で紹介します!

ボツリヌス療法の流れ



※ 目的やリハビリの必要性に応じて「入院」での治療も行っています。